

サポート資源提供システム 2003年度事業報告

2003年4月1日～2004年3月31日

サポート資源提供システム 事務局
特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

目 次

1. 実施事業概要	2
2. システム運用報告および内部評価	
2 - 1 システム運営委員会	3
2 - 2 サポート資源提供	
2 - 2 - 1 物品等提供	4
2 - 2 - 2 パソコン等提供	5
2 - 2 - 3 資金提供(みんなファンド)	6
(1) 概要	
(2) 助成金提供第1弾(ふくふくファンド、お祭りくらぶ、本体ファンド)	
(3) ろうきん地域貢献ファンド(冠ファンド)	
(4) 仙台青葉ライオンズクラブ『NPO公開コンペ2003』(公募助成)	
(5) みやぎNPO夢ファンド(冠ファンド)	
2 - 3 情報発信	13
2 - 4 関連事業報告	
2 - 4 - 1 NPO情報ライブラリー	14
2 - 4 - 2 NPOへの人財サポートシステムの開発2003	14
2 - 4 - 3 企業とNPOの交流・連携のための巡回フォーラム	15
2 - 4 - 4 せんだいCARES	16
2 - 4 - 5 地域貢献活動相談センター	16

1. 実施事業概要

本格運用2年目となる「サポート資源提供システム」。前年度と同様、オフィス什器・備品や消耗品といった「物品等提供」、中古パソコンや周辺機器を提供する「パソコン等提供」、そして「資金提供」の3プログラムで資源提供が行われた。年間の実績としては表1に示す通り、**のべ85団体に490万円相当の支援**を実施することができた。この支援総額は前年度実績比で50%増となっている。

表1 サポート資源提供システム 2003年度 資源提供実績

	提供先団体数 (のべ数)	提供点数	金額換算価値 (*)
物品等提供	37団体	368点	74万円
パソコン等提供	29団体	67点	151万円
資金提供	19団体	-	265万円
計	85団体	-	490万円

(*) 物品・パソコンは一般の中古市場価格にて換算

中でも今年度は、資金提供プログラムに大きな発展が見られた。潜在的な寄付者(市民・企業・各種団体等)に対してよりアピールしていく仕組みとして、2003年7月に「**地域貢献サポートファンドみんな(みんなファンド)**」を設立、システムのPRに努めた結果、資金提供については前年度比8倍という大きな伸びを達成することができた。

前年度に引き続き、システムの運営については、**運営委員会**との協議の上で進められた。さらに、システムの運営状況について随時ホームページ上で公開するとともに、資源提供を受けたNPOの情報については、関連事業である**NPO情報ライブラリー**等を通して積極的に発信し、透明性・公開性の高いシステム運営を目指した。

サポート資源提供システム <http://www.minmin.org/SSS/>

みんなファンド <http://www.minmin.org/fund/>

NPO情報ライブラリー <http://www.minmin.org/Library/>

また、関連事業として「NPOへの人財サポートシステムの開発2003」を実施、企業とNPOの人財(材)交流を促進していくための仕組みづくりについて検討を行うとともに、同じく関連事業として「企業とNPOの交流・連携のための巡回フォーラム」を開催、企業とNPOの出会いの場を設定することで、両者の連携・協働を促進していくための機会提供を積極的に行った。

2. システム運用報告および内部評価

2 - 1 システム運営委員会

2003 年度事業計画にもとづき、システム協賛企業・団体、システム提携企業・団体とシステム事務局（せんだい・みやぎ NPO センター）からなる運営委員会を 6 回開催し、事業報告やシステムの運営状況について協議を行った。

表 2 サポート資源提供システム運営委員会 2003 年度 開催概要

	日時	会場	検討事項
第 1 回	2003 年 5 月 13 日 14:00~16:10	せんだい・みやぎ NPO センター	・2002 年度事業報告・収支報告 ・2003 年度事業計画・収支予算案 ・地域貢献サポートファンドについて
第 2 回	2003 年 6 月 18 日 14:00~16:00	せんだい・みやぎ NPO センター	・事業報告（キリンビール（株）様からの物品提供について、他） ・みんみんファンド運用規程について ・関連事業報告（企業と NPO の交流・連携フォーラム：7 月のファンド設立記念イベントについて）
第 3 回	2003 年 8 月 4 日 17:00~18:00	仙台市市民活動 サポートセンター	・事業報告（みんみんファンド募集について、物品、PC 提供報告など） ・本体ファンド運用委員会について
第 4 回	2003 年 10 月 6 日 14:00~16:00	仙台市市民活動 サポートセンター	・事業報告 ・関連事業報告 ・半年間の振り返り
第 5 回	2003 年 12 月 8 日 15:00~18:30	仙台市市民活動 サポートセンター	・事業報告 ・関連事業報告（企業と NPO の協働フォーラムについて、宮城県の冠ファンドについて、せんだい CARES 報告、ほか）
第 6 回	2004 年 3 月 25 日 16:00~17:30	仙台市市民活動 サポートセンター	・事業報告 ・関連事業報告 ・2003 年決算の見通しについて ・2004 年度事業について

今年度は、協賛企業・団体 20 社、提携企業・団体 10 社を目標としていたが、最終的に 2004 年 3 月現在、協賛 9 社、提携 7 社となった。運営委員会での議論も活発となり、今後もシステムの協賛・提携を増やし、安定した運営を目指していきたい。

表 3 システム運営委員（協賛企業・団体、提携企業・団体 2004 年 3 月末現在）

【協賛企業・団体】 (株)アート・システム イートス(株) (株)一ノ蔵 (株)鈴木魁文堂 (株)ステップ 東北電力(株)宮城支店 東北労働金庫宮城県本部 ハリウコミュニケーションズ(株) (株)フレックス池田	【提携企業・団体】 東北労働金庫宮城県本部 (協)日専連仙台 (株)日専連ライフサービス みやぎ NPO 夢ファンド(宮城県) (社)宮城県情報サービス産業協会(MISA) 宮城県労働者福祉協議会 ヤマト運輸(株)東北支社 (敬称略・50 音順)
---	--

2 - 2 サポート資源提供

2 - 2 - 1 物品等提供

今年度は表4に示すように、のべ37団体へ368点の物品を提供することができた。中古市場価格で換算すると、約74万円相当になる。

表4 サポート資源提供システム 2003年度 物品提供実績

提供者（敬称略）	提供資源	提供先団体数	提供点数	提供時期
SS30 15周年誕生祭実行委員会	会場	4団体	-	2003年5月
ハリウコミュニケーションズ(株)	什器・備品	1団体	8点	2003年5月
麒麟ビール(株)	什器・備品	6団体	68点	2003年6月
冠ロータリークラブ	FAX機	1団体	1点	2003年8月
せんだい・みやぎNPOセンター	備品・消耗品	3団体	3点	2003年8月
ライオン事務器 仙台支店	什器・備品 ・消耗品	12団体	282点	2003年8月
せんだい・みやぎNPOセンター	什器・備品	1団体	6点	2003年11月
東京海上火災保険株式会社 日動火災海上保険株式会社 (協力：阪和興業株式会社)	什器・備品	9団体	-(*)	2004年1月
		のべ37団体	368点	74万円相当

(*) 当システムからは、NPO向けの情報提供についてのみ協力を行った。

5月には、SS30・15周年誕生祭実行委員会様よりイベント会場内のブース提供のご相談があり、4団体を紹介した。誕生祭のにぎわいづくりに協力でき、参加団体にとっても活動紹介や資金調達の機会となった。その他の主な提供資源は什器・備品であるが、今年度は新古品の事務消耗品や小口の什器・備品の提供も複数回実施することができた。

表に示した他に、物品提供を希望する企業からお問い合わせをいただいたものの、残念ながら提供には至らなかったケースが数件あった。課題としては、仲介手数料がある。現行のシステムでは、物品の提供が成立した際には、条件によって割引を設定しながら仲介手数料（一般の廃棄手数料より若干低く設定）をいただいている。いただいた手数料はNPOへの告知費用など事務局費用に充てられている。大口の提供の場合は、内覧会形式で行うため割引条件が整っているが、小口の提供については割引がない。小口提供のニーズが少しずつ増えてきていることもあるので、改善策を検討していきたい。

2004年1月の物品提供内覧会の様子



2 - 2 - 2 パソコン等提供

前年度に引き続き、(社)宮城県情報サービス産業協会(MISA)様のご協力により、中古パソコンの提供を実施した。事業の円滑な運営を図り、提供状況や募集の情報を交換する目的で、MISA様とせんだい・みやぎNPOセンターによる連絡会を3回開催した。

第1回情報連絡会	2003年7月23日	せんだい・みやぎNPOセンターにて
第2回情報連絡会	2003年9月1日	せんだい・みやぎNPOセンターにて
第3回情報連絡会	2004年1月15日	せんだい・みやぎNPOセンターにて

さらに今年度は、提供先団体での利用状況を調査するためNPOを訪問したり、MISA様の総会でNPOへのパソコン提供事業(PC-Bridge MISA様の事業名)とサポート資源提供システムのPRを行うなど、提供事業をより多くの企業に知っていただく活動を実施した。

2004年1月16日	MISA新春講演会・賀詞交歓会でPC-Bridge紹介。
2004年2月6日	パソコン活用NPOを訪問しインタビュー。
2004年3月	MISAの情報誌にサポート資源提供システムの紹介が掲載。

今年度は、当初より年3回、各回20台提供の目標をたてて進めてきたが、最終的にMISA様からの提供分として、予定を上回るパソコン62台、プリンター2台を提供することができた。この他に、以前の提供の際に当センターにてお預かりしていたものも随時提供し、全体の提供実績としては、表5の通りとなった。

表5 サポート資源提供システム 2003年度 中古パソコン等提供実績

提供者(敬称略)	提供資源	提供先団体数	提供台数	提供時期
(社)宮城県情報サービス産業協会	デスクトップ	8団体	20台	2003年7月
		8団体	21台	2003年9月
せんだい・みやぎNPOセンター	デスクトップ	1団体	2台	2003年10月
(社)宮城県情報サービス産業協会	デスクトップ	9団体	21台	2004年3月
	プリンター	2団体	2台	2004年3月
せんだい・みやぎNPOセンター	プリンター	1団体	1台	2004年3月
		のべ29団体	67台	151万円相当

(年度目標 50台)

3月の提供のうち、パソコン12台、プリンター2台について、(株)一ノ蔵様に提供協力をいただいた。

提供の募集ごとに、NPO情報ライブラリーへの新規登録団体も増加し、パソコン提供に関する問合せも年間を通じて増えてきている状況である。

2 - 2 - 3 資金提供（みんなみんファンド）

（１）概要

前年度来検討を進めてきた資金提供部門の強化については、「地域貢献サポートファンドみんなみん（みんなみんファンド）」の設立（2003年7月）で一定の成果を得ることができた。

表6 地域貢献サポートファンドみんなみん（みんなみんファンド）設立までの経緯

2002年9月～	サポート資源提供システム資金提供部門の強化策について検討
2003年2月20日	「地域貢献サポートファンド」設立の方向性を確認。（運営委員会）
3月～4月	ファンドの愛称を全国から募集（応募件数594件） <参考> http://www.minmin.org/SSS/kikin_aisyou.htm
5月13日	愛称を決定「地域貢献サポートファンドみんなみん（みんなみんファンド）」（運営委員会） <参考> http://www.minmin.org/SSS/kikin_aisyou_kettei.htm
～6月中旬	ファンド運用規程などの検討（事務局）
6月18日	「地域貢献サポートファンドみんなみん運用規程」「同 運用細則」「同 本体ファンド運用委員会規程」の承認（運営委員会）
6月24日	上記諸規定の承認（せんだい・みやぎNPOセンター理事会）
7月1日	「地域貢献サポートファンドみんなみん（みんなみんファンド）」設立 <参考> http://www.npoweb.jp/news_info.php3?article_id=1283
7月17日	「地域貢献サポートファンドみんなみん」設立記念 記念講演&市民ドネーションパーティの開催 <参考> http://www.minmin.org/fund/donepa200307report.htm

みんなみんファンドの仕組みや助成メニュー、手数料等詳細については、ホームページに掲載し（<http://www.minmin.org/fund/>）、告知につとめた。

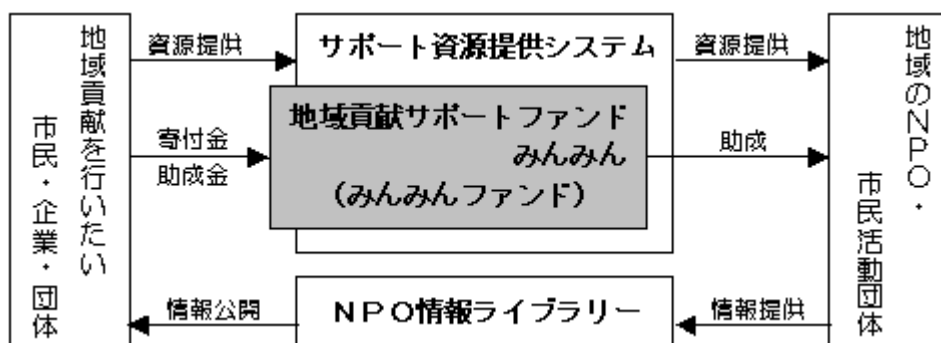


図1 地域貢献サポートファンドみんなみん（みんなみんファンド）概念図

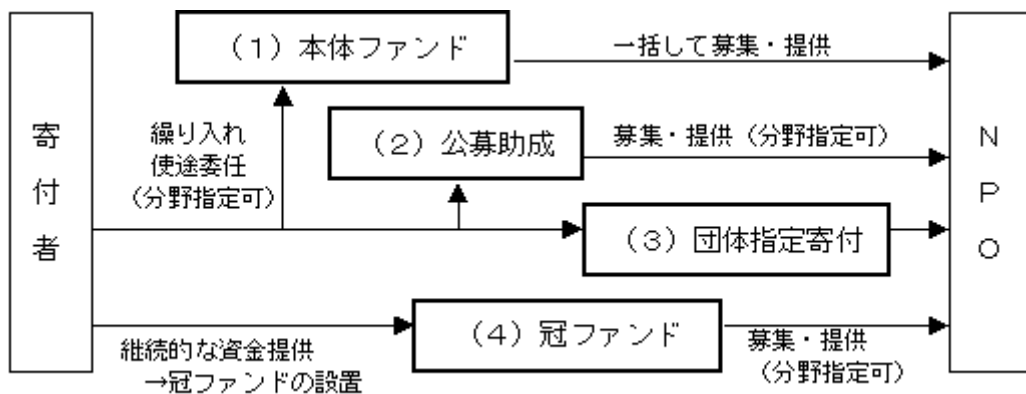


図2 地域貢献サポートファンドみんな（みんなファンド）助成メニュー

ファンド設立後、みんなファンドの中核となる「本体ファンド」や「公募助成」による資金提供の他、資金提供者の名前等を冠し継続的に資金提供をしていただく「冠ファンド」が2件設置され資金提供が行われた。

「ふくふくファンド」（宮城労福協社会貢献活動基金） 宮城県労働者福祉協議会様

「ろうきん地域貢献ファンド」 宮城労働金庫様（2003/10～東北労働金庫宮城県本部様）

最終的な実績としては表7の通り7団体・個人からのべ19のNPOへ265万円の提供となった。

表7 みんなファンド 2003年度 資金提供実績

提供者（敬称略）	提供資源	提供先団体数	提供総額	提供時期
冠ロータリークラブ	助成金（本体ファンド）	1団体	5万円	2003年9月
日専連ライフサービス	助成金（本体ファンド）	（3者からの助成金・寄付金をまとめて1口として募集・提供した。）	3万円	2003年9月
加藤哲夫	寄付金（本体ファンド）		2万円	2003年9月
お祭りくらぶ。	助成金（公募助成）	2団体	20万円	2003年9月
宮城県労働者福祉協議会	助成金（冠ファンド）	3団体	30万円	2003年9月
宮城労働金庫	助成金（冠ファンド）	5団体	150万円	2003年9月
	審査員特別賞	5団体	25万円	2003年9月
仙台青葉ライオンズクラブ	助成金（公募助成）	3団体	30万円	2003年11月
のべ19団体			265万円	

（年度目標 100万円）

さらにこの他、来年度から助成を開始するNPO支援基金「みやぎNPO夢ファンド」（設置者：宮城県）について、みんなファンド内の冠ファンドとして運用できないか、という申し入れが2003年11月に宮城県からあった。それを受けて運営委員会などで検討した結果、3件目の冠ファンドとして設置されることとなった。

以下、各資金提供について、個別に報告する。

(2) 助成金提供第1弾(ふくふくファンド、お祭りくらぶ、本体ファンド)

冠ファンドである「ふくふくファンド」(設置者：宮城県労働者福祉協議会様)からの30万円と、「お祭りくらぶ。」様からの20万円(公募助成)、それに本体ファンドの10万円(冠ロータリークラブ様、日専連ライフサービス様、加藤哲夫様の3団体・個人から提供)の合わせて60万円を、10万円×6口として、みんなファンド第1弾の助成金として提供した。

2003年7月17日～8月20日の約1ヶ月間募集を行ったところ、16団体から応募があった。これらの企画について、8月23日に開催された審査会にて書類審査を行い、以下の通り助成先を決定した。

< 審査員(敬称略) >

浅見紀夫 (株式会社一ノ蔵 副会長、
サポート資源提供システム運営委員会委員長)

鈴木和行 (株式会社鈴木魁文堂 代表取締役社長、
サポート資源提供システム運営委員会副委員長)

萩原なつ子 (有識者 お祭りくらぶ。代表、武蔵工業大学環境情報学部助教授)

加藤哲夫 (せんだい・みやぎNPOセンター代表理事・常務理事)

< 助成先 >

ふくふくファンド

- ・子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ
- ・特定非営利活動法人ソキウスせんだい
- ・CILたすけっと

お祭りくらぶ。

- ・東北HIVコミュニケーションズ
- ・特定非営利活動法人蕪栗ぬまっこくらぶ

みんなファンド

- ・チャイルドライン in MIYAGI

助成団体に対しては9月6日に開催された贈呈式(せんだい・みやぎNPOセンター第5回通常総会記念セミナーの枠内で開催)にて、目録が贈呈された。

< 参考 >

募集要項 <http://www.minmin.org/fund/fund200308.htm>

審査基準 <http://www.minmin.org/fund/pic/sinsakijun200308.pdf>

審査経緯 http://www.minmin.org/fund/fund200308_2.htm

贈呈式 http://www.minmin.org/fund/fund200308_6.htm

(3) ろうきん地域貢献ファンド(冠ファンド)

2件目の冠ファンドとして設置された「ろうきん地域貢献ファンド」(設置者:宮城労働金庫様(2003年10月からは東北労働金庫宮城県本部様))からは今年度、150万円の助成金をご提供いただいた。

このファンドは、労働金庫の預金者の皆様から「ろうきんNPO寄付システム」を通じていただいた寄付金と、利子の一部(30%)が寄付にまわる社会貢献定期預金「ろうきんNPOサポーターズ」からの寄付金、そして、労働金庫様からのマッチング寄付金とを合わせて原資として提供するものである。今年度は、ろうきんNPO寄付システムからの寄付金(¥23,600-)とマッチング寄付金が原資となった。

2003年8月4日~9月5日の約1ヶ月間募集を行ったところ、19団体から応募があった。これらの企画について、9月10日に開催された第1次選考(書類審査)会にて書類審査を行い上位10団体を選出した。この10団体について、9月22日、公開コンペ方式による第2次選考を実施した。その結果、上位5団体について各30万円の助成金が、その他の5団体には別途「審査員特別賞」として各5万円とコピー用紙が提供された。

< 審査員(敬称略 順不同) >

・第1次選考(書類審査)

鈴木正博 (宮城労働金庫 総務部次長)
小野辰也 (宮城労働金庫 営業推進部副長)
北 尚登 (宮城労働金庫 企画部次長)
紅邑晶子 (せんだい・みやぎNPOセンター 常務理事・事務局長)
高田 篤 (せんだい・みやぎNPOセンター スタッフ)

・第2次選考(公開コンペ)

星 新一 (連合宮城 会長) 審査委員長
高橋一夫 (宮城労働金庫 理事長)
増子良一 (イートス株式会社 代表取締役社長)
針生英一 (株式会社ハリウコミュニケーションズ 代表取締役社長)
加藤哲夫 (せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事・常務理事)

< 助成先 >

移動サービス・ネットワーク みやぎ
東北HIVコミュニケーションズ
特定非営利活動法人グループゆう
仙台ダルク
子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ(キャブネット・みやぎ)

< 審査員特別賞 >

認定特定非営利活動法人日本ガーディアンエンジェルス仙台支部
特定非営利活動法人宮城県断酒会
特定非営利活動法人ソキウスせんだい
NPO・シャロームの会
せんだい杜の子ども劇場 2 1

< 参考 >

募集要項 <http://www.minmin.org/fund/roukin200308.htm>
応募団体・申請内容 http://www.minmin.org/fund/roukin200308_3.htm
第1次選考の様子 http://www.minmin.org/fund/roukin200308_2.htm
第1次選考結果 http://www.minmin.org/fund/roukin200308_4.htm
第2次選考の様子 http://www.minmin.org/fund/roukin200308_5.htm

(4) 仙台青葉ライオンズクラブ 『 N P O 公開コンペ 2 0 0 3 』 (公募助成)

2001年度、2002年度に引き続き、仙台青葉ライオンズクラブ様より30万円の資金提供をいただいた。今回の助成は「こどもの健全育成」「国際交流」「地産地消・食の安全安心」の3分野への助成となった。サポート資源提供システムからは、広報、審査基準の設定、審査の3点について協力した。

10月下旬から11月上旬にわたって募集を行った結果、7団体から応募があり、すべての団体が11月15日に公開コンペ方式による選考に出場した。選考の結果、以下の3団体に10万円の助成が行われた。

< 助成先 >

子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ (子どもたちの健全育成)
ハイチ友の会 (国際交流)
アグリ・ノーマライゼーション in 秋保 (食の地産地消、安全・安心)

< 参考 >

募集要項 <http://www.minmin.org/fund/lions200311.htm>
公開コンペの様子 http://www.minmin.org/fund/lions200311_2.htm

本助成については、調整の遅れから、助成プログラムの設定、広報等が十分とはいえない結果となった。来年度以降も継続の際は、早めの調整が必要である。

(5) みやぎNPO夢ファンド(冠ファンド)

来年度から助成を開始するNPO支援基金「みやぎNPO夢ファンド」(設置者：宮城県)について、みんなファンド内の冠ファンドとして運用できないか、という申し入れが2003年11月に宮城県からあった。それを受けてサポート資源提供システム運営委員会などで検討した結果、3件目の冠ファンドとして設置されることとなった。全国初の「官設民営型」のNPO支援基金として、全国から注目を集めているところである。

運用委員会の設置、開催

ファンドの適切な運営を図るため運用委員会を設置、年度内に2回開催した。

<運用委員名簿(敬称略)>

学識経験者	山田 晴義	宮城大学教授	委員長
	江尻 行男	東北福祉大学教授	
NPO関係者	大久保 朝江	NPO法人杜の伝言板ゆるる代表理事	副委員長
	兵藤 博行	高清水ソフトウェアカンパニー代表	
	中村 祥子	NPO法人グループゆう代表理事	
	木村 孝	NPO法人不忘アザレア常任理事兼事務局長	
企業関係者	間庭 洋	仙台商工会議所理事兼事務局長	
	佐々木 武夫	エースシステム株式会社代表取締役	
宮城県	渡邊 光子	宮城県環境生活部次長	

<運用委員会開催状況>

第1回 平成16年2月12日(木) 18:30~21:00 参加委員 6名
(みやぎNPOプラザ第1会議室)

報告事項 ファンド開設の趣旨及び経緯について

協議事項 ファンド設置規程、運用委員会運営要綱(案)
助成プログラム方針について 他

第2回 平成16年3月2日(火) 18:00~20:30 参加委員 7名
(県庁・環境生活部会議室)

協議事項 助成規程(案) 募集要項(案) 審査基準(案)について 他

規約等の整備

ファンドの運営に必要な諸規程について、以下の通り整備した。

みやぎNPO夢ファンド設置規程	(平成16年2月12日運用委員会承認)
みやぎNPO夢ファンド運用委員会運営要綱	(平成16年2月12日運用委員会承認)
みやぎNPO夢ファンド助成プログラム方針	(平成16年2月12日運用委員会承認)
みやぎNPO夢ファンド助成規程	(平成16年3月2日運用委員会承認)
みやぎNPO夢ファンド助成審査基準	(平成16年3月2日運用委員会承認)

助成プログラムの開発

第1回運用委員会にて承認された、みやぎNPO夢ファンド助成プログラム方針をもとに、ファンドの助成プログラムについて以下の3プログラムを策定し、各プログラムについて募集要項、審査基準を制定した(第2回運用委員会にて承認)。

(1) 人材育成支援プログラム

NPOがその運営や意思決定などに中心的に関わる人を対象に、団体内部で研修事業を実施する際の経費の一部を補助することで、団体の発展を支援するもの。

- ・助成団体数 6団体程度
- ・助成額 10～15万円(1万円単位)
- ・助成率 総事業費の3/4以内。

(2) ステップアップ支援プログラム

公益性の非常に高い事業を実施するNPO(またはそのネットワーク団体)に対して一定期間・一定額の助成を行うことにより、その団体の運営基盤の確立と安定したサービス提供体への成長を促し、宮城県におけるモデルケースとなるような先進的事业に発展することを支援していくもの。

- ・助成団体数 2団体程度
- ・助成額 100万円
- ・助成率 総事業費の4/5以内。

(3) スタートアップ支援プログラム

すでに活動を行っている団体が新規事業を立ち上げる際や、これから活動していく団体が活動を始める際に、その初期費用について助成を行うもの。

- ・助成団体数 8団体程度
- ・助成額 15～20万円(1万円単位)
- ・助成率 総事業費の4/5以内。

第1回助成対象事業の募集

募集要項に沿って、以下の通り助成対象事業の募集を行った。

- ・応募受付期間 平成16年3月20日(土)～4月8日(木)
- ・応募要項配布方法
 - (1) ホームページ(<http://www.minmin.org/fund/miyagi/>)からのダウンロード。
 - (2) 宮城県環境生活部NPO活動促進室、みやぎNPOプラザ、および、せんだい・みやぎNPOセンター内での配布。
 - (3) 問合せにより郵送による配布。

この他、告知チラシを作成・配布し、情報提供に努めた。

寄付金の募集

ファンドへの寄付受け入れについて、告知チラシを作成し広報を行うと同時に、みやぎNPO夢ファンド寄付金受け入れ内規(次年度運用委員会に提案予定)など諸規定の準備を進めた。年度内に、2件、75万円の寄付金をいただいた。これらの寄付金については、次回助成の原資として活用する。

2 - 3 情報発信

前年度に引き続き、システムの運営状況について随時ホームページ上で公開し、透明性・公開性の高いシステム運営を目指した。

サポート資源提供システム <http://www.minmin.org/SSS/>

みんなファンド <http://www.minmin.org/fund/>

NPO情報ライブラリー <http://www.minmin.org/Library/>

また、メールニュースの発行（1回）も含め、メール、FAX、郵送など各種手段を併用しながら、企業向け・NPO向けの情報発信を随時行った。2001年度に作成したリーフレットについても継続して配布を行い、約2,300部を配布した。（NPO向け約1,200部、企業向け約1,100部）

さらに今年度は、新聞等各種メディアへの掲載が多かった。以下、掲載リスト。

<マスコミ掲載記事>

2003年7月1日	河北新報	「NPOがNPO後押し 資金支援基金を創設」
2003年7月19日	河北新報	「活動に有効活用を NPO支援基金 設立記念し講演会」
2003年8月17日	河北新報	社説「NPO支援基金 税制の壁を乗り越えたい」
2003年8月25日	河北新報	「NPOを応援 助成先を募集 宮城労働金庫」
2003年9月29日	河北新報	「地域貢献ファンド初の公開審査会 宮城労働金庫」
2004年1月8日	河北新報	「NPO支援へ基金 新年度県が創設」
2004年2月8日	河北新報	「人材育成・ネット構築支援 東北 行政ファンド設立相次ぐ」
2004年3月29日	TBC（東北放送）Web	「NPO夢ファンド、積極的な取り組み求める」
2004年4月3日	河北新報	「NPO活動助成 希望団体を募集 県・8日まで」

<その他掲載記事>

社の伝言板ゆるる	2003年8月号	《みんなファンド》がスタート」
シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会	ホームページ（NPOWEB）	
	2004年1月27日	「宮城県で官設民営型基金創設」
	2004年3月	「助成金情報」
ワンカラットエル春号	2004年2月号	NPOグループ紹介 仙台青葉ライオンズクラブ
（社）宮城県情報サービス産業協会	情報紙	2004年3月号
		「PC Bridge（中古パソコン リユースサポート事業）の成果」
みやぎ県政だより	2004年3月号	「始めます。みやぎNPO夢ファンド」
宮城県広報番組 たきたて！みやぎDON	2004年2月（仙台放送）	
ポケットみやぎ（宮城県産業経済総務課）		「みやぎNPO夢ファンド 寄付金」
全国知事会ホームページ		
		「NPO花盛りのみやぎに！ 始めます。「みやぎNPO夢ファンド」
ガバナンス（発行 ぎょうせい）	2004年4月号	
		「新しい公共」をつくり出すためにNPO支援事業を「協働」で推進
		宮城県＋仙台市＋NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター

2 - 4 関連事業報告

2 - 4 - 1 NPO情報ライブラリー

前年度に引き続き、団体情報の収集・発信を行った。サポート資源提供システムの運用の活発化とともに登録団体も増加し、2004年3月末現在の登録団体は90団体となった。

また、年度後半に登録時の説明書について改良を行い、ライブラリーについてよりよく理解していただけるように努めた。今後とも、情報発信・情報公開の必要性についてより強く啓発していくことで、ライブラリーの質の向上を図っていきたい。

2 - 4 - 2 NPOへの人財サポートシステムの開発 2003

(企業人ソフトランディングプラン 21)

「企業・労働組合の社会貢献活動などに関するヒアリング調査」

この事業は、サポート資源提供システムなど、これまでのセンターと企業との関わりから得られたノウハウを生かしながら、企業人材の社会参加促進、定年後のソフトランディングなどに対する企業側・労働組合側のヒアリング調査を幅広く行い実態を把握し、今後のNPOと企業の交流・連携の参考にすることを目的とした事業である。

特に以下の3点について、ヒアリングを行い、企業・労働組合とNPOの関係構築のあり方、人材の交流について検討した。

地域社会を構成する一員の活動として注目されている企業・労働組合の社会貢献活動
新たな社会構成員として脚光を浴びているNPOに対する企業・労働組合の意識
社員・勤労者のライフデザインや地域での生活・活動を見据えた研修プログラム

表8 人財サポートプログラム 2003年度 ヒアリング先一覧

【企業】 (株)NTTドコモ東北 (株)鐘崎 カメイ(株) (株)七十七銀行 (株)仙台銀行 (株)デンコードー (株)藤崎 宮城トヨタ自動車 (株)ユアテック	【労働組合】 エヌ・ティ・ティ労働組合東北総支部 JR東労組仙台地方本部 仙台市職員労働組合 東北電力労働組合宮城県本部 ユアテックユニオン宮城支部 連合宮城 (敬称略、順不同)
--	---

調査の成果については、記録集として作成し、ヒアリング関係者等に配布予定である。

2 - 4 - 3 企業とNPOの交流・連携のための巡回フォーラム

「企業が動くと地域はもっと住みやすくなる」

企業とNPOとの連携・協働は様々な所で始まり、成果を上げてきているが、それぞれは単独、単発である場合が多く、成果が多くの人々の目に触れる機会はまだ少ないのが現状である。そこでセンターでは今年度「企業とNPOの交流・連携のための巡回フォーラム」を石巻市・古川市・仙台市の3市で実施した。主なねらいは以下の2点である。

企業とNPOの連携・協働の促進のためには、企業人の主体的な参加とNPO理解の促進が何よりも大事である。そのために、すでに活動に参加している企業人の話を他の企業人に聞いていただく場を提供したい。

NPOの側も、企業の活動の制約と可能性について理解を深めることが、相互の関係づくりには重要である。NPOの方も同時にこのセミナーに参加することで理解促進の一助としたい。

幸いにもフォーラムの実施に当っては、宮城県共同募金会様からの助成をいただくことができた。さらに、サポート資源提供システム関連企業・団体の皆様に多大なご協力をいただくことで、事業を成功に導くことができた。このフォーラムを通じて企業間の交流はもちろんのこと、多くのNPOと企業の方が出会い、交流連携が一層進展した。今後もこのような取り組みを継続して続けていきたい。

表9 企業とNPOの交流・連携のための巡回フォーラム 実施状況

会場	日時	タイトルなど	内容
第1回 仙台市	7月17日	「地域貢献サポートファンドみんなみんな」設立記念 記念講演&市民ドネーションパーティ	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域貢献サポートファンド みんなみんな」紹介 ・記念講演 「信託と公共性の誕生～地域社会と経済の大きな絆～」 ・市民ドネーションパーティ
第2回 石巻市	12月15日	「企業が動くと地域はもっと住みやすくなる」 共催：特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「地域貢献で変わる！企業と労働組合の現状とその未来」 ・ゲストからの事例報告
第3回 古川市	2月6日	「企業が動くと地域はもっと住みやすくなる」 共催：特定非営利活動法人 パートナースHIP古川	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「地域貢献で変わる！企業と労働組合の現状とその未来」 ・ゲストからの事例報告
第4回 仙台市	3月11日	「企業が動くと地域はもっと住みやすくなる」	<ul style="list-style-type: none"> ・せんだい・みやぎNPOセンターが考える企業の地域貢献の形 ・6つのストーリー&企業とNPOの名刺交換会

2 - 4 - 4 せんだいCARE S

「せんだいCARE S」は、仙台市内でNPOが開催する催しを広く告知し、そこへの市民の参加を促すことで、「NPOと一緒に仙台のまちの『お世話(CARE)』をしましょう」というキャンペーンである。2003年度のせんだいCARE Sは、11月中に行われる25の催しを対象とし、多くの企業の協力を得て行われた。

キャンペーンの反応は、チラシ等の配布を開始した10月から始まった。催しの主催団体のチラシができる前に申込があったり、問い合わせやホームページへのアクセス数がいつもの月より増えたという団体も見られた。

最終的にはイベント参加者数34,000人、25のNPOの参加と236の企業・団体・施設、22の後援企業・団体、そして16人の企業人有志からなる「せんだいCARE Sサポーターズ会議」の協力を得て、「せんだいCARE S」は終了した。

キャンペーンの告知としては、NPOの催しを掲載したパンフレットの配布(約34,000部) 関連するポスター(約800枚) およびポストカード(約10,000枚)の掲示・配布などで行った。このような告知ツールの配布協力をはじめ、イベントの共催、イベントへの参加呼びかけ等で多くの企業の方のご協力をいただくことができた。また「せんだいCARE Sサポーターズ会議」とともに、キャンペーン展開について検討し、実施した。

11月30日に開催された「フィナーレ」では、企業側からもNPO側からも「来年もまた」という声をたくさんいただいた。来年度の開催は、資金調達が難しいところではあるが、個人参加も含む企業の皆様との実行委員会形式により実現したいと考えている。「企業の社会貢献」といった動機だけではなく、皆さんが住むこのまち・仙台のNPOの活動を知っていただく機会をつくる、という意味からも、多くのお手伝いを企業の方々からもいただいで進めていきたい。

2 - 4 - 5 地域貢献活動相談センター

前年度センターを設置したが、今年度の相談は数件にとどまった。今後は告知など工夫しながら事業を進めたい。

(以上)